

接続期（前期）

内容：自分の考えを相手に分かるように伝えたり，友達の思いを受け入れたりする

5歳児 10月

「なんかさ、それ面白そう」



<p style="text-align: center;">幼児の姿</p>	<p style="text-align: center;">内容とのつながり 及び 関連する 幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿</p>
<p>ユカ、ミコ、サキ、マコ、アイ、ミサキはドングリなどの秋の実を使って作ったケーキで、ケーキ屋さんごっこを始めた。しかし、何故お客さんが来ないのかと悩んでいたため、教師は、ほし組全員でケーキ屋さんをすることを提案した。</p> <p>遊び終わり、皆を集めて振り返りの場を設けた。それぞれの感想を話している中で、カタとウツシが意見を言った。</p> <p>カタ 「何でさ、ケーキはタダでもらえるの？」</p> <p>それを聞いたケーキ屋さんをしていた幼児は、驚いたような困ったような表情を見せた。</p> <p>ウツシ 「だって本物のお店は、レジでお金を払うよね。だから、お金とレジがいる」</p> <p>カタ 「そうそう、おつりをもらいたいんだよねー」</p> <p>2人は楽しそうに話した。ケーキ屋さんをしていた幼児は互いに顔を見合わせ、明るい表情になった。</p> <p>ミサキ 「なんかさ、それ面白そう」</p> <p>ミコ 「でもさ、お金たくさん作らなきゃいけないね」</p> <p>ユカ 「レジは、どうやって作る？」</p> <p>カタ 「段ボールで作れるんじゃない？」</p> <p>ウツシ 「お金も段ボールでできると思う」</p> <p>マコ 「そんなに沢山段ボール切れない！」</p> <p>ユカ 「今はできないからさ、また明日考えよう！」</p> <p>次の日のケーキ屋さんは早速レジづくりから始まった。教師も手伝いながら、段ボールでレジを作った。お金も段ボールで作ろうと作業を始めたが、やはり昨日話していたように、切るのに疲れてしまった。</p>	<p>・友達の「お金のやり取りがしたい」という思いを受け入れ、自分達の遊びをより楽しくしようと考えを伝えあっている</p> <p style="text-align: right;">協同性</p> <p style="text-align: right;">思考力の芽生え</p> <p style="text-align: right;">言葉による伝え合い</p>

マコ 「やっぱり切るのは無理だよ」

ユカ 「うーん…。じゃあ折り紙とか、他の紙にする？でもそれじゃすぐ曲がっちゃうよねえ…」

なかなか良い案が浮かばず、しばらく悩んでいた。するとミキが「切らなくてもいいものがある」と話した。

ユカ 「え？どういうこと？」

ミキ 「切らなくてもいいもので、たくさん集めればいってこと。えっと……、石とか」

サキ 「あ、落ち葉とかってこと？それならいっぱいあるし」

ミコ 「でもさ、落ち葉だったらすぐボロボロになって書けないよ」

教師 「あ！ちょうどいい葉っぱがたくさんある所があるよ」

教師の提案で、ケーキ屋さんごっこのメンバーとツバキの葉を集めに行き、その後皆でマジックで金額を書き込んだ。その日からケーキ屋さんごっこには「お会計係」が新たな役割として加わった。

・友達の考えを聞こうとしたり
自分の考えを相手に伝えようと説明したりしている

協同性

思考力の芽生え

言葉による伝え合い